

■参考資料 3 : 四国臨海平野地盤図

- ◇本資料は、2000年1月に中国地方基礎地盤研究会（代表世話人 芳賀保夫福山大学教授）によって編集発行されたものを基にしている。

- ◇最下部層 L m の上限30mの地下等深線を基に、地盤型図におけるC型（沖積層の厚さが全部で30mを超える）地域のラインを強調して示しているが、これは推定により手書きで追記したものである。

- ◇このラインは、ある程度幅を持ったものとして捉え、付近の状況等を考慮し、地盤の判断の目安として利用することが望ましい。

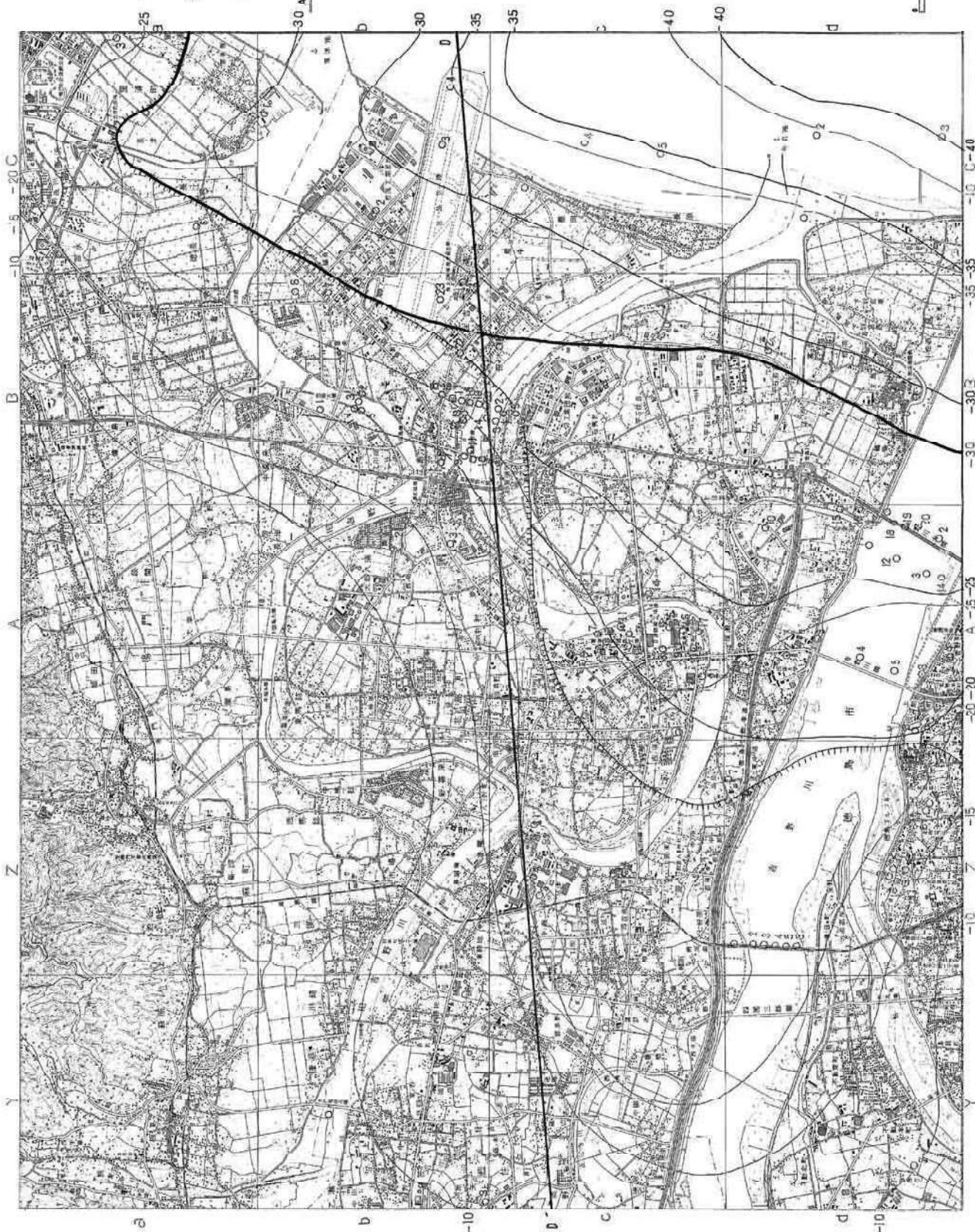
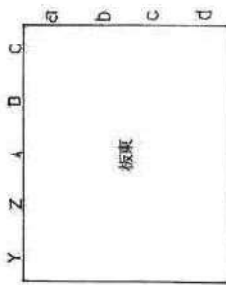
記号

山地・丘陵地

- 1 ボーリング地点および番号
- 上層粘土層 (UC) の下限
- 地下等深線 (単位 m)
- 上層粘土層 (UC) の厚さ
5 m 以下の範囲
- 最下部層 1m の上界
- 地下等深線 (単位 m)

(地下等深線の基日は東京湾中等潮位)

断面図作成箇所

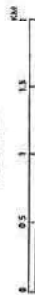


四国臨海平野地盤区

6 徳島県

板東

1:25,000

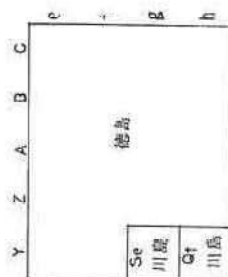


記号

山崩・丘陵地

- 1 ボーリング地点および番号
- 上層粘土層 (LC) の下限
- 地下等深線 (単位 m)
- 上層粘土層 (LC) の厚さ
5 m 以下の範囲
- 最下部層 Ln の上限
- 地下等深線 (単位 m)
- (地下等深線の基準は東京湾中環線位)

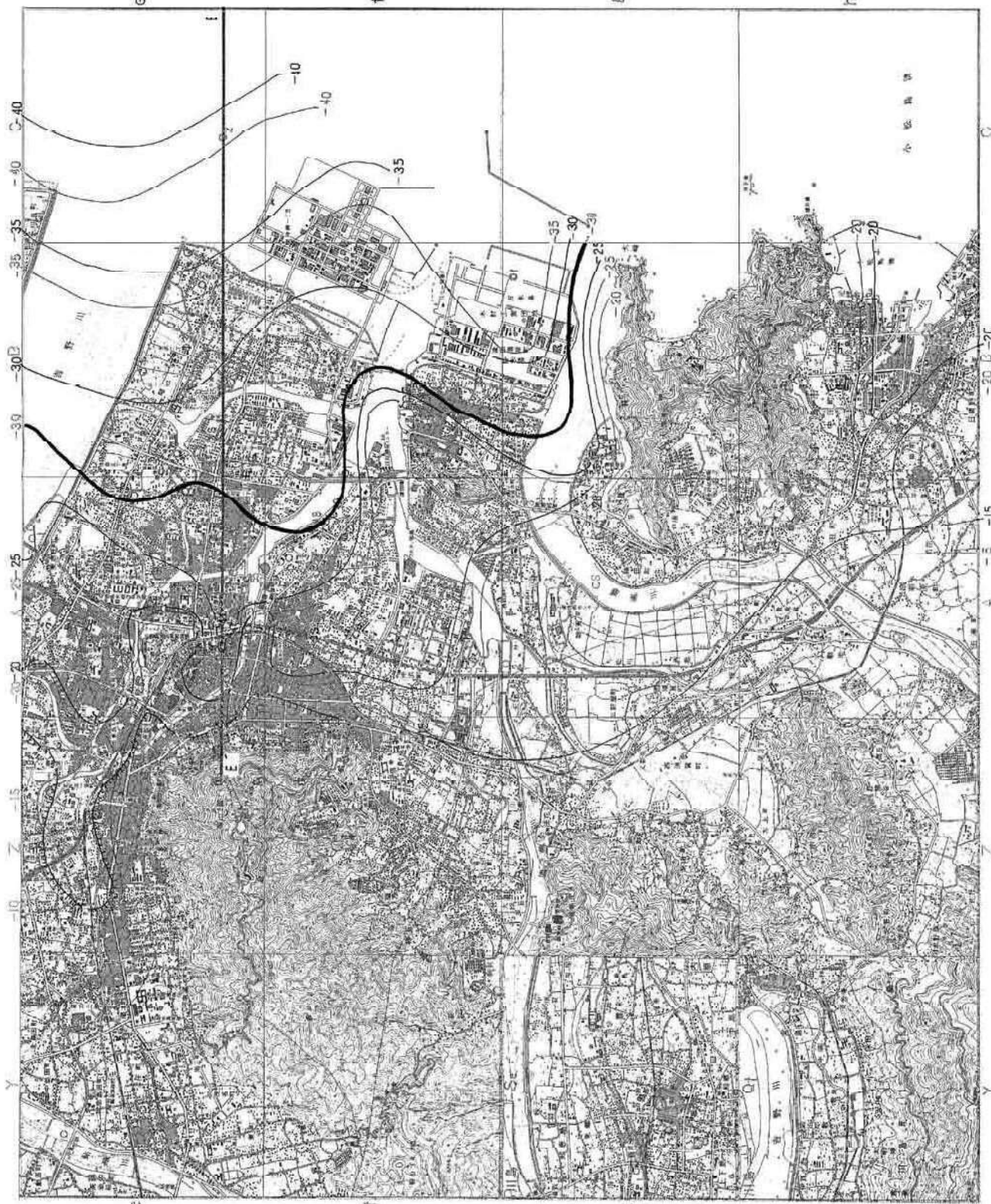
A A' 断面図作成箇所



四国臨海平野地盤図
7 徳島県

川島 徳島

1:25,000



記号

山地・丘陵地

- 1 ボーリング地点および番号
- 上部粘上層 (UC) の下限
- 地下等長線 (単位 n)
- 上部粘上層 (UC) の厚さ
5 m 以下の総厚
- 最下部層 Lm の上限
- 地下等長線 (単位 n)
(地下等長線の基準は東京湾中等深値)

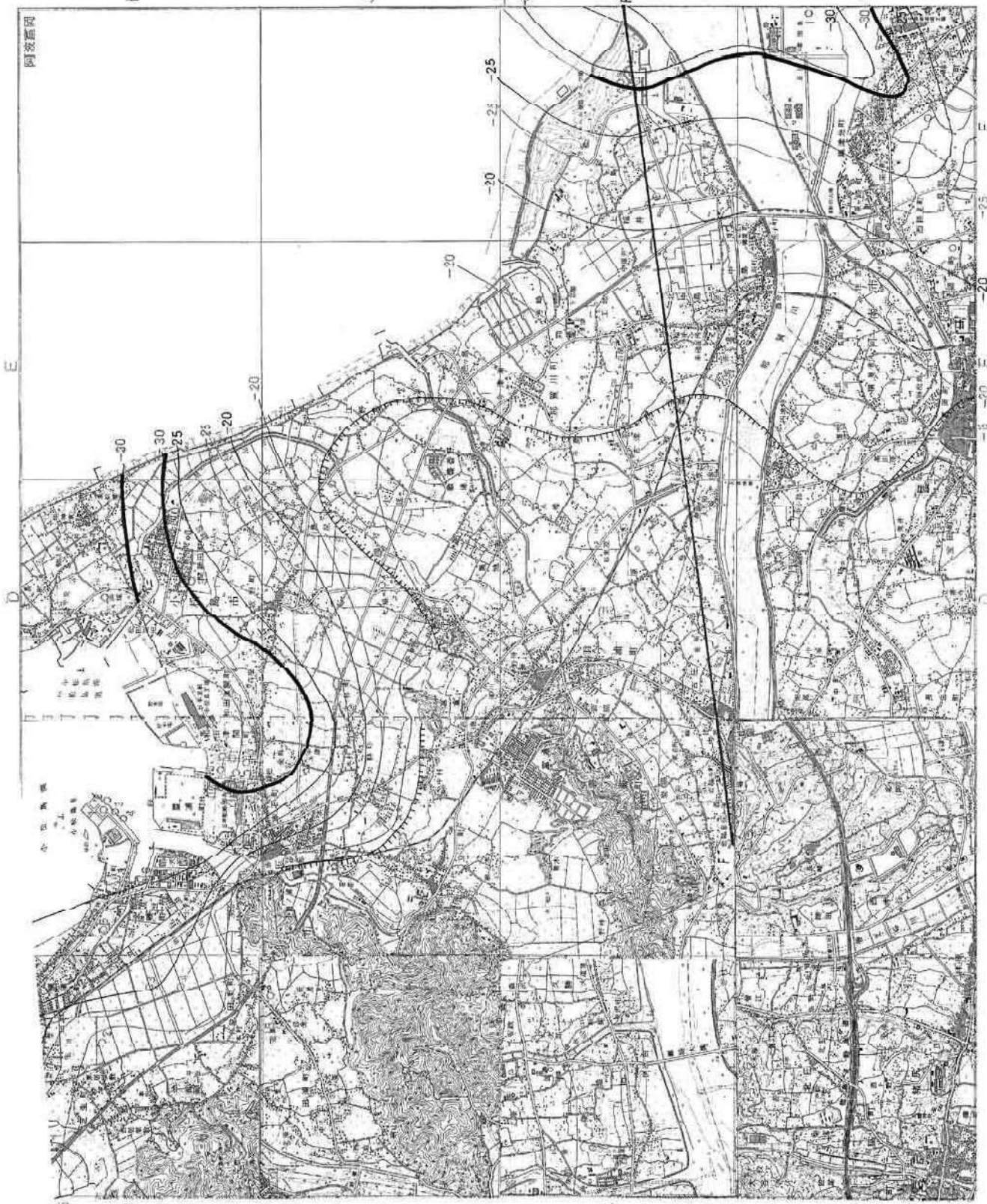
A A 断面図作成場所



四国臨海平野地盤図

9 徳島県

縣町 立江 阿波高岡



記号

山地・丘陵地

- 1 ボーリング地点および番号
- ① 上部粘土層 (UC) の下限
- ② 地下等深線 (単位 m)
- ③ 上部粘土層 (UC) の厚さ 5 m 以下の範囲
- ④ 最下部層 Lm の上原
- ⑤ 地下等深線 (単位 m) (地下等深線の基準は東海圏中等深線位)

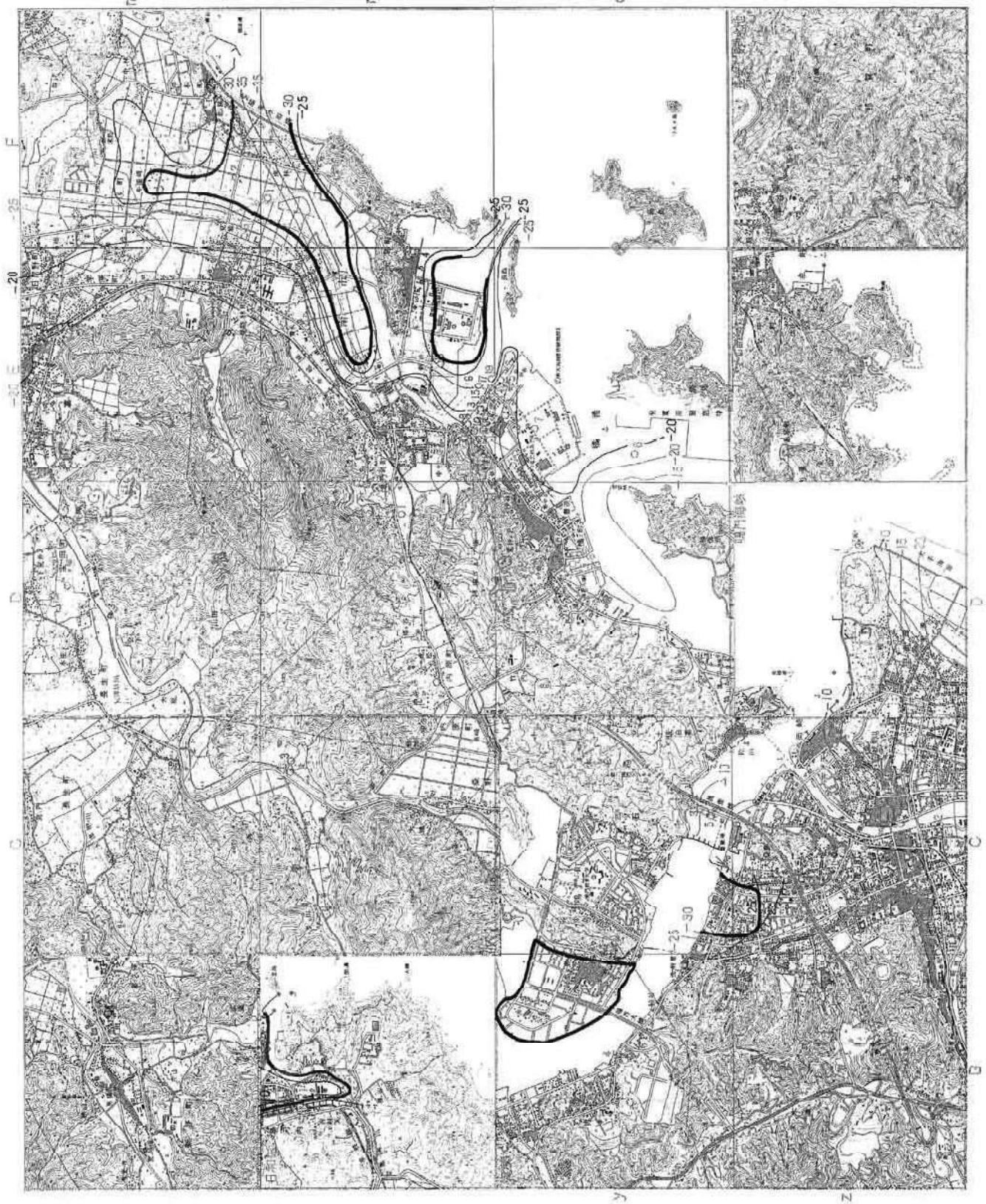
A A 断面図作成箇所

Gp	馬場	C	D	E	F	m
Zy	日和佐	橋				n
						o
				Dz	Ly	Qs
				鳴門	牟岐	長安口
				海峽		貯水池
		E	C			

**四国臨海平野地盤図
10 徳島県**

- 撫養 鳴門海峽 日和佐 牟岐
- 馬場 橋 長安口貯水池

1:25,000



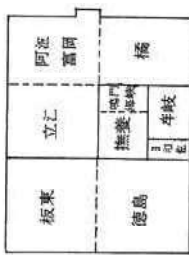
地盤型記号

- 洪積層以前の台地・丘陵地・山地
- A型：沖積粘土層 U Cの厚さが5 m以下、または沖積層の厚さが全部で15 m以下の地塊
- B型：沖積層の厚さが全部で30m以下でA型に入らない地域
- C型：沖積層の厚さが全部で30mをこえる地域

常時微動の測点記号

- A 型
- B 型
- C 型

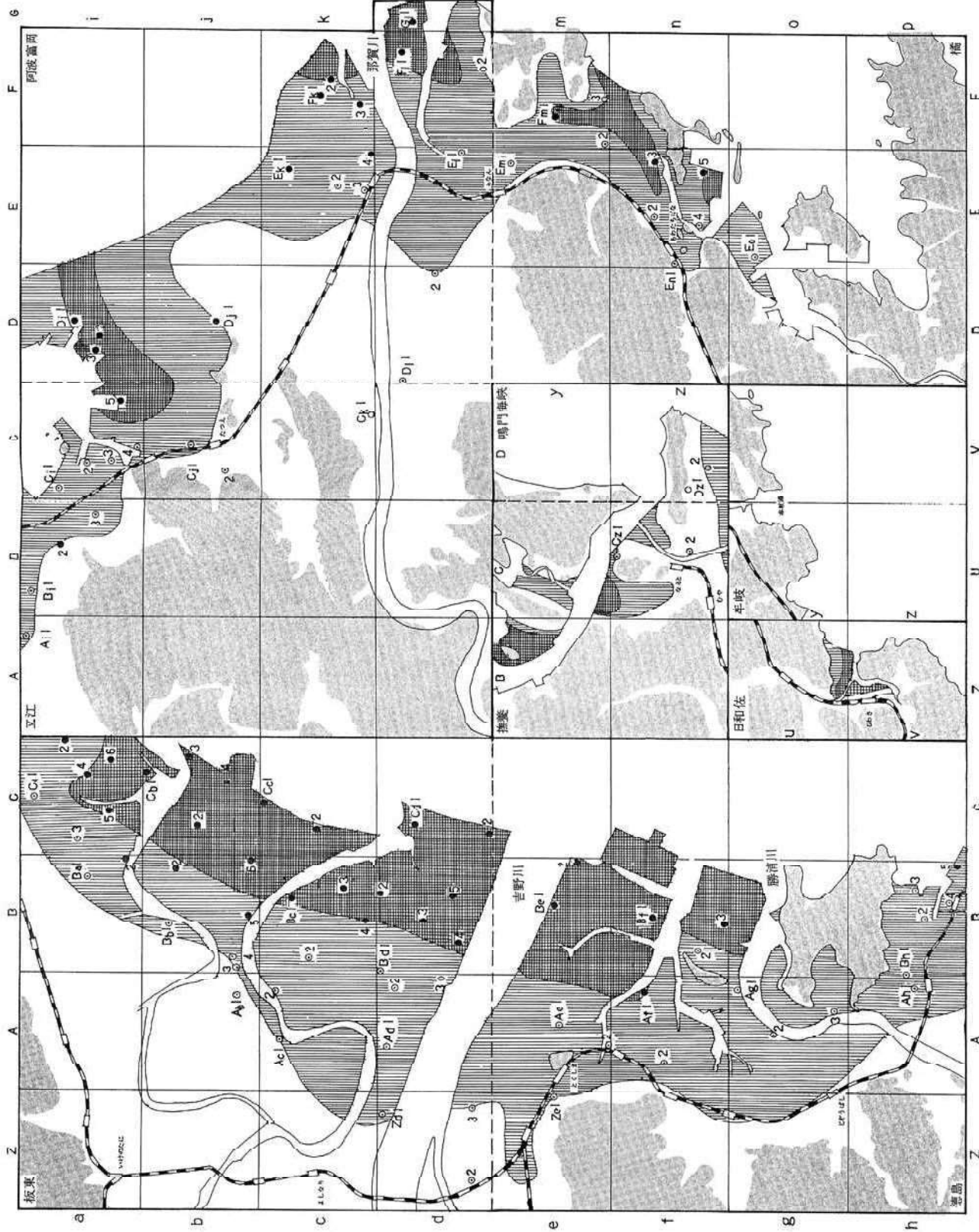
特記なき低地の地盤型はA型である。



地盤型図

2 徳島県

- 撫養 鳴門海峡 板東 徳島
- 立江 阿波高岡 橋 日和佐
- 牟岐 牟岐



縮尺 1:75,000

■参考文献等

◇2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法

一般財団法人 日本建築防災協会
国土交通大臣指定耐震改修支援センター

◇2012年改訂版 木造住宅の耐震診断と補強方法

／一般診断法による診断プログラム

一般財団法人 日本建築防災協会
国土交通大臣指定耐震改修支援センター

◇四国臨海地盤図

中国地方基礎地盤研究会

2022 徳島県木造住宅耐震化促進事業マニュアル

2022年8月

監修 徳島県県土整備部住宅課

発行 公益社団法人 徳島県建築士会

監修 徳島県県土整備部住宅課
発行 公益社団法人 徳島県建築士会